



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 超長期投資のススメ

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

超長期投資で投資するためには、超長期で繁栄して成長し続ける企業でなくてはなりません。人生を通じての資産運用では、まず退職後の生活基盤を整えるということで資産形成をする。これはコアです。いつもお話している通り、若い時から十分に分散されたポートフォリオを作成し、世界株ファンドを積立投資で長期に続けていくこと。極めてシンプルです。



今日はコア部分のトッピングとして個別銘柄投資のお話です。一つの選択肢は超長期投資ではないかと思います。基本的には、つまり、サテライトの超長期投資の部分は、将来の世の中のためという位置づけになります。コアの部分は基本にお金。サテライトの超長期投資は志というか心の部分、「お金と心」というコアとサテライトという区分けができるでしょう。

超長期投資に適した3つの条件を考えてみます。1番目は、長期にわたってよい世の中を創ることに貢献をする企業。2番目は、何世代も主体的な判断で存続し、繁栄を続けるご長寿企業。3番目は、成長するための資金を自社で生み出せる企業。この3つのポイントについて今日はお話しをします。

まず長期にわたって良い世の中を創ることに貢献する企業です。ざっくり言えば、2015年9月に国連で決められたSDGs(持続可能な開発目標)に基づいて投資するのがESG投資(E:環境・S:社会・G:企業統治)。一般に年金や投資信託でESG投資が盛んに言われるようになってきました。これは悪いことではないのですが、私は、ESG投資はあくまで個人が行うべきことだと思います。

超長期のスタンスで、ESGにそった個別銘柄の投資を個人でする。するとこういう社会を実現したいという世界中の個人総体としての意図が資本市場に反映されていくことになります。ある意味、壮大な選挙のようなものです。年金や機関投資家、投資信託だけでなく、個人も株主として企業に対して働きかける。さらに企業や組織にもっと働きかけるべき主体は、株主という立場のみでなく、従業員や消費者も含まれます。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

機関投資家は、いろいろな種類の ESG 投信を出しています。各企業の ESG 活動を評価する機関も出てきています。しかし、そのような評価機関の意見に従い銘柄を選び、ESG の指標に連動するようなファンドを運用していればそれでいいというものではないと思います。それぞれの機関投資家として、どういう哲学、価値観を持って企業を評価しているのか、それがとても重要でしょう。その点では受益者が外部にいる機関投資家の ESG 投資は本来、非常に複雑だと思います。

それが極めてシンプルに直接できるのが個人です。個人、一人ひとりの価値観を持って銘柄選択、議決権の行使、エンゲージメントをやっていけばいい。投資先の企業のトップに手紙を書くのも良いと思います。評価できる点、考えてほしいこと、注意した方がよいことなどメッセージを送り働きかければいいのです。

二番目の基準は何世代も主体的な判断で存続し、繁栄を続けるご長寿企業という視点です。面白いことに、ご長寿企業や老舗企業の分析を続けていくと、二つ共通した考え方があります。一つは先義後利。「義」とは道理にかなったこと。人道に従うことという意味です。まず良いことをすると利益は後から来ます。もう一つは不易流行。時代を超えた文化の伝承をしていくこと。長く世間に支持され続ける企業。これが、ご長寿企業の特徴です。

講演では個人投資家のための ESG 投資について、また、ハッピー・マネー®4 分法と ESG の行動についての解説。エンゲージメントの進化についての説明。超長期投資に適した企業について興味深い解説をしてくださいました。最後に「投資は投志です。長期投資は一生では短すぎる。良い社会を創る企業。何世代も続く永代企業を代々保有していく。それによって、自分の命が終わった後も企業に生き延びてもらい、良い世の中を創ることに貢献してもらおう。これが私は本当の意味の超長期投資ではないかと考えています」と結ばれました。